

若者等活動拠点施設整備に向けた検討会(第4回)結果報告

日時 平成30年2月28日(水) 午後7時00分～9時10分

場所 高山市役所 2階 201・202会議室

出席者 検討メンバー 30名

事務局(高山市企画課、飛騨高山大学連携センター)4名

内容

1. あいさつ(開会) 田谷参事

- ・ 第3回までは、施設の活用方法(何をやりたいか)を中心に検討を進めてきた。一方で、(主にハード面として)どのような施設となっていくのか、不安の声も聴いている。
- ・ 第4回については、これまで検討してきた内容を整理する時間(回)としたい。今回の検討を踏まえ、次の検討へ繋げていきたいと考えている。

2. これまでの検討の論点整理(案)

- ・ 田谷参事より、別紙資料「若者等活動拠点施設整備に係るこれまでの検討の論点整理(案)」について説明。
- ・ 説明後、質疑応答 (メ:検討メンバー、事:事務局)
メ:資料中「～できる限り」の表現が多くみられる。曖昧な表現は避けて、明確な表現としたほうが良いのでは。例えば、「建築基準法に基づき～」など。
事:今回提示の案は、現時点で確定したものではなく、今後みなさんとともに議論していくが、現時点で全て明確にできるものではない。ご指摘は理解できるので、わかりやすい表現方法を心掛ける。

3. ワークショップ

- ・ ワークショップの進め方の説明。説明後、質疑あり (メ:検討メンバー、事:事務局)
メ:本日のワークショップの目的は?
事:今回提示させていただいた案(中間のまとめ)に対して、グループに分かれて確認するなど、話し合っていたきたい。また、新たに検討していく必要がある項目についても議論いただきたい。
メ:グループごとに話し合う内容は異なってくるのか?
事:そのようなこともあり得る。
メ:第3回まで検討してきたことは触れないのか?
事:当然に触れていただきたい。あわせて議論いただけると良い。
- ・ 5つのグループに分かれ、グループ討議の後、各グループから発表、質疑応答

①グループ 6名

- 施設用途は限定せず、多目的に使えるような場所とすべき。
- 「若者等」の定義があいまいであるが、若者に限定したものではなく、幅広い年代を対象とすべき。
- 2階は活動スペースとして使用できると良い。
- バリアフリーを施すにしても、やり過ぎは良くない。建物の良さを損なわない程度に。
- 管理者について、常駐の管理者にプラスして、ボランティア(学生など)を加えると良い。

- 観光客への対応(トイレの使用など)をどうしていくのか、といった課題がある。
- 施設の運営に関して、使用料や使用上のルールをどうするのか、といった疑問が残った。運営時は、あまり細かくルールを定めず、柔軟に運用し、状況に応じて定めていく方が良いのではないかな。
- 伝建築地区文化財保護に関する知識など、勉強しておく必要がある。

②グループ 6名

- そもそも事業の目的が明確になっていない点が多い。法律との関係など、それらの詳細をはっきりさせた上で検討を進めていくべき。
- 使うユーザーが特定されていないことなどは、周辺地域にどのような影響を及ぼすかが予測できず、懸念される。具体的にどのような線引きで活動を行うか、外観(ハード面)ではなく、内容(ソフト面)から決めていく必要がある。
- 行政が設置する施設ということで、基本的に非営利目的で使用するようになると思うが、非営利である以上、需要(ニーズ)が低いのではないかな。持続的な運営が難しいのではないかなと感じる。

③グループ 5名

- 提示された案は、あいまいな表現が多い。現状の建物から変わってしまうのではないかな、という疑問が残る。
- この地域に住む者の思いを形として残すことが大切ではないかな。
- 祭によって地域が繋がっていくことが大切。このつながりを大切にしながら、施設を使っていけると良い。
- 今の旧村田邸で、建物の使い方についての自主的な勉強会をしたらどうか。
- 旧村田邸がこのままの状態が残ってほしい。祭のことや勉強会に使えたら良い。
- 下町は生活感があって良い。その良さを残してほしい。

④グループ 6名

- 建物が伝建地区にあるため、改修ではなく修理なら可能である。
- 旧村田邸には、車や自転車を止めるスペースが無く、決してアクセスは良くないが、この建物を目指し、あえて歩いて行くことで、若者が歴史文化を知る良い機会になるのではないかな。
- 活用に関して、学生などが学習する場として活用できると良い、との考え方がある一方で、不特定多数の若者が使用することで、地域住民への生活環境上の不安を与える、との考え方もある。
- 旧村田邸(伝統的建造物)と若者活動について、この2つは相反するものであり、一緒に考えることには無理があるように感じる。あえて着地点を見出すならば、若者がこの地域の歴史文化を学ぶ場として活用できるとの視点が良いのではないかな。

⑤グループ 7名

- ハード面の制約をはっきりさせないと議論が深まらない。まずはハード面の制約をある程度はっきりさせた後、それに見合ったソフト面を考えていくといった流れが良いのではないかな。
- 観光的な用途で使うのか、バリアフリーは必要か、断熱は必要かなどの検討は必要である。
- ソフト面については、あまり縛りをかけないで、柔軟に使用できると良い。

・ 質疑応答 (メ:検討メンバー、事:事務局)

メ:市への意見が多かったように感じるが、次回までにはっきりさせていただきたい。

事:次回までに全てをはっきりさせることには、できるもの、できないものがある。

メ:あいまいな表現が多いから、話し合いが進まないのでは。

事:本日の資料は、たたき台として出させていただいた。これから皆さんで話し合いにより、固めていければ良いと考えている。

メ:どこのグループも話し合いになっていないのでは。

事:良い議論がされており、良い発表もされていた。話し合いになっていないことはない。

メ:メンバーは、伝建地区のことを良く知らない。地域の制約も分からないまま、検討が進められている。前回提案のあった高校生レストランや宿泊が不可となったが、それはなぜか？

事:前は専用施設としてレストランや宿泊に特化した施設整備ではない、という提案の趣旨であった。

メ:ソフト面のレストランや宿泊不可など、理由が補足してあれば、メンバー相互の誤解が生まれないのではないか。また、前提条件で、法的な制約をわかる形で示した上で、議論を進めた方が創造的なアイデアが出てくるのではないか。

事:伝建地区や建物のことをひとつひとつ理解していくことや話し合いをしていくことの必要性は感じている。

メ:話し合いの時間が足りないと感じている。そのため、個人的に、本事業に係る非公式のフェイスブックのページを立ち上げたい。意見交換ができれば良いと思う。

事:個人的に取り組まれるのであれば吝かではない。

メ:偏った方向にならないことに留意していただきたい。

メ:話し合いの時間が足りていないと感じている。色々なことに挑戦していく、どうやったら話し合いがまとまっていくのか、やれることは何でも挑戦していく姿勢が必要と思う。

メ:前は良い議論ができたと感じている。前回のテーマをベースに、テーマ別で議論したらどうか。(旧村田邸が)色々な制約がある中で、どう建物を活用したらよいかを最後まで考え抜いたらどうか。

事:そのような形での議論を深めることは必要である。

メ:現在進めている活用案は、施設運営上のどの段階のものを想定しているのか。我々はどの時点のことを検討しているのか。(例えばスタート時点に開始するものなど)

事:どの段階かは決めつけて議論はしていない。開始時点から継続されるものもあれば、変わっていくものもあると考えている。

メ:どのようなことに使える建物にしようか、ということなのか。例えば会議室にしようか、高校生が学べる場にしようかとか。

事:そうである。

メ:事務局もワークショップに入ってもらえると良い。前回欠席者への説明も含め、対応していただくとありがたい。

事:私どもも望んでいるところ。

3. 閉会

- アンケートを添付しているが、時間も押しているので、ファックスやメールでも良いので、回答いただくとありがたい。
- 次回(第5回)もご参加をお願いしたい。

以上